

フクダ電子は医療機器専門メーカーとして皆さまの健康な毎日を応援いたします。

<p>1月</p>  <p>トキ 撮影：新潟県 佐渡市</p> <p>日本産のトキは絶滅しましたが、中国から借り受けた個体で増殖事業が行われています。2008年からは自然界への放鳥も行われ、2018年の野外での生息数は推定で355羽にもものぼるそうです。佐渡は積雪が少ないので、厳寒期でもドジョウなどを採食し、佐渡の自然にすっかり溶け込んで生活しています。</p>	<p>2月</p>  <p>シマエナガ 撮影：北海道 川上郡</p> <p>エナガの別亜種で、北海道に生息している亜種シマエナガです。エナガの顔にある黒い過眼線が、シマエナガにはないので、白くて丸い頭部は綿帽子をかぶったようです。日本でもっとも小さい小鳥の一種でもあり、嘴が短くて、黒目の小鳥の可愛らしさは格別です。凍てつく雪の中でも元気に跳ね歩いています。</p>	<p>3月</p>  <p>カンムリワシ 撮影：沖縄県 石垣市</p> <p>沖縄県の先島諸島に生息する、国の天然記念物に指定されているワシです。頭部の羽を立てると冠のように見えることから、冠鷲と名付けられました。3月下旬頃から繁殖に入り、雌雄で行動することが多くなります。「ピュピュピュピュ」などと鳴き合う求愛飛行だけでなく、雌雄が並んでいる姿も見られます。</p>	<p>4月</p>  <p>ツグミ 撮影：東京都 小金井市</p> <p>全国の平地から山地の、林や農耕地などに渡来する冬鳥です。渡来直後は群れですが、ほどなく単独になって冬を過ごし、地面を跳ね歩いてミズなどを採食しています。春にシベリアなどの繁殖地へ帰ってしまうと、「クワツ」や「キョツ」という鳴き声が聞かれなくなり、ツグミが口をつぐんだと言われました。</p>
<p>5月</p>  <p>キビタキ 撮影：青森県 つがる市</p> <p>東南アジアから、九州以北の平地から山地の林に夏鳥として渡来します。繁殖地の山地へ行く途中で都心部の公園に立ち寄り、北海道へ渡る直前には青森県の広大なリンゴ畑を通過したりする個体もいます。花が咲くと昆虫類が多く集まるリンゴ畑は、キビタキが栄養補給をするには格好の場所です。</p>	<p>6月</p>  <p>ベニマシコ 撮影：北海道 紋別市</p> <p>北海道で繁殖し、それよりも南で越冬する、国内を季節移動する漂鳥です。繁殖地の草原の少しでも高い場所で囀って、縄張り宣言をします。エゾノシシウドの白い花は良いソングポストですが、他の小鳥のように周辺に響き渡るような鳴き声ではなく、「チュルチュルチュ」とつぶやくように鳴いています。</p>	<p>7月</p>  <p>カッコウ 撮影：山梨県 富士吉田市</p> <p>日本で繁殖する夏鳥で、他の鳥の巣に卵を産み、その鳥にヒナを育てさせる託卵という、興味深い習性があります。「カッコウカッコウ」という鳴き声は高原の朝を連想しますが、近年は都心近くの公園などでも鳴き声を聞くことがあり、もしかしたら、託卵相手にされる種の鳥は警戒しているかも知れません。</p>	<p>8月</p>  <p>バン 撮影：新潟県 阿賀野市</p> <p>漂鳥または留鳥としてほぼ全国に生息していますが、北方のものや雪国のものは厳寒期には暖地へ移動します。足指が非常に長いバンは、もしかしたら水面を泳ぐよりも、水草の上を歩く方がずっと得意かも知れません。ハスの花の間の葉の上を忙しく歩きまわって、採食している姿をよく見かけます。</p>
<p>9月</p>  <p>アマサギ 撮影：新潟県 新潟市</p> <p>夏鳥として、ほぼ全国に渡来するサギ類です。夏羽は頭から後頸、胸、背が橙黄色のいわゆる銚色(ルビ:あめいろ)をしています。この銚色が亜麻色になって、アマサギという名前になったと言われています。ですが、繁殖が終わり、渡りの途中頃から橙黄色は少なくなり、日本から渡去する頃には冬羽の純白になります。</p>	<p>10月</p>  <p>エゾビタキ 撮影：山梨県 南都留郡</p> <p>全国の平地から山地の林などを、春秋に通過する旅鳥です。この個体は羽先にまだ白い部分が見られるので、幼鳥から第1回冬羽へ換羽する途中だと言ったことが分かります。こんな幼い鳥が、まだ一度も行ったことのない、フィリピンやインドネシアの越冬地に向かって飛んで行くのかと思うと感動します。</p>	<p>11月</p>  <p>ジョウビタキ 撮影：東京都 府中市</p> <p>多くは冬鳥として、シベリア方面からやってきますが、近年は案外多数が、本州以北の山地で繁殖するようになってきました。危惧する温暖化とは逆行しているように思えて、不思議な気もします。秋が深まった頃に綺麗に紅葉するツタの実が好物のようで、日に何度もやってきて、無心で採食します。</p>	<p>12月</p>  <p>アオゲラ 撮影：東京都 府中市</p> <p>鹿児島県屋久島から本州までの、平地から山地の林に生息し、街中の広い公園などにも生息する留鳥です。キツツキの仲間なので、木を突いて昆虫類の幼虫などを食べている印象が強いのですが、木の実も好物で、実はよく採食します。このエノキの実にも何度もやって来て、瞬間に食べ尽くしました。</p>